

格闘技サンボ世界7位、柔道全国3位

戦いの場求めて

7★ オートレーサー33期生・女子7人 飛び出せフレッシュ!

33期生20人でただ1人、入試特例で選手試験に合格した。過去には青木治親や青山周平らがおり10人目。交川はロシア生まれの格闘技サンボで、14年の全日本サンボ選手権女子48kg級優勝、同年世界選手権7位の成績が評価された。「はつきりと結果が出るので、勝負の世界は好きですね」。昨年8月末まで高校の保健体育の教員だった。柔道部では監督、安定した生活を捨てて、なぜオートレーサーを目指したのか。「教諭はとてまわりがいがあつ

交川 陽子 (28=浜松)



卒業式でガッツポーズする交川陽子

◆交川陽子（まじかわ・ようこ）
1989年（平成）1月19日、京都府生まれ。高校教諭から転身。師匠は長谷晴久。趣味はスポーツ観戦。153・2㌢、47㌔。血液型O。

たのですが、どうしても自分を戦いの場に身を置きたくなかった」。全国3位の実績を持つ柔道は15年のキャ

リア・サンボはもちろん、レスリング、スキー、水泳で指導者レベルのスキルを
持っている。

養成所では訓練中の落車事故で右手中指を骨折。デビューが遅れた。「あせりはあったのですが、落ち着いてしっかり周りを見ていこうと決めました」。勝負師として歩んできた人生が、大きな支えになった。目標は佐藤摩弥。「レースを見て格好いい、と感じました」。33期生では最年長の28歳は「選手としていスタートを切りたい。それまで全力で準備したい」と誓う。人生紆余（うよ）と曲折。デビュー戦から出遅れた挽回が始まる。

【天野保彦】
(おわり)